
真・恋姫＋無双～守護神伝～

紅の豚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫†無双〜守護神伝〜

【Nコード】

N8010S

【作者名】

紅の豚

【あらすじ】

ファンタシースターポータブル2の主人公を恋姫に転生させたら面白いという、作者の邪な願望を詰めに詰め込んだ駄作品です。それでもOKという方はどうぞ読んで下さい。

〜天界の守護神〜

SEED事変、亜空間事件を解決し幾度もグラールを救ってきた英雄、焰・刹那、多くの仲間たちに見守られ、五十年という短い生涯に幕を下ろした。

だが、英雄、焰・刹那の戦いはまだ終わってはいなかった！

英雄が向かうのは外史と呼ばれる少し変わった三国の世界、その世界で英雄は何を成し、何を守るのか・・・しかし、これだけはハッキリ言える、彼は必ず三国の世界をグラールと同様に救う事だけは確かな事ということだ。

今、時空を超えた英雄の戦いが幕を開ける！

大いなる母との再会、母の願い

刹那 side

目を覚ますと一面真っ白な空間に俺は立っていた。

「・・・ここは、どこだ？」

俺は、何故ここに居るんだ？」

（アナタは、死んだのです。）

「!?!?・・・誰だ!」

突然、頭の中に女の声が響いてくる。だが、その声を俺は知っている。

「ミカ、なのか？」

（はい、その通りです。久し振りですね刹那。）

ミカ、俺のパートナー、エミリア・ミュラーの中に宿っていた旧文明人、グラールを救う為にその身を呈して守った偉大な母

「ああ、久し振りだな、ミカ。アナタがここに居るといふ事は、ここは亜空間の中なのか？」

（はい、その通りです。と言っても他の亜空間とは少し異なる亜空間ですが。）

「異なる亜空間？」

（はい、この亜空間は死した人々の魂が集まる場所、ここに集まった魂は新しい命を得る為に生まれ変わるその時まで眠りにつきます。この亜空間はその為に存在し、新たな命を守る為の空間なのです。）

「なる程、じゃあ俺がここに居るのは生まれ変わる為の眠りにつく為に居るのか？」

（ええ、本来ならばそうなのですが・・・）

？、何だか言いにくそうな感じだな

（実は、アナタにお願いがあるのです。）

「お願い？」

何だか、嫌な予感がするな

（はい、私の友人に貂蟬という人がいるのですが、貂蟬の力になって挙げてほしいのです。）

「ミカの友人？その貂蟬ってゆう奴も旧文明人なのか？」

（いいえ、貂蟬は旧文明人ではありません。貂蟬は外史と呼ばれる世界の管理者です。）

外史？管理者？聞いた事ない言葉だな。

（順を追って説明します。外史とは、人々の思いが形となって出来る世界の事です。こうだったら、ああだったらという想像の世界なのです。）

なる程、人の思いが具現化した世界という事が

「亜空間と似ているな、違つとすれば具現化現象とは違い、消える事無いという事位だな。」

（はい、細かい部分は違うのですが大体合っています。ただ、これから行つて頂けるかどうかは別にして、そのお願いしたい外史は消えてしまう可能性があるのです。）

「どついつ事だ？」

（実は、その外史に・・・カムハーンが居るのです。）

何！カムハーンだと！？

「どついつ事だ！アイツは確実にエミリア達と共に倒したはずだ！それが何故！？」

（理由は分かりませんが、あの男が居る事は間違いありません。）

だがどついつ外史に逃げたんだ？あの状況で逃げられる筈がない。

（お願いというのはカムハーンの事なのです。外史では亜空間を操る事は出来ません、あの男を野放しにしておけば、また新たな悲劇を生み出してしまいます。）

確かに・・・奴を野放しにしておけば、悲劇を生み出すのは確実に・・・
場合によってはグラールの時以上の悲劇が生まれる可能性がある・・・
か。

(どうか、外史に行っていただけではないでしょうか、外史に行けば他の魂の様に新しく生まれ変わる事が出来なくなる可能性があります。それでも、こんなお願いをする事が出来るのはアナタしかいないのです。・・お願いします、どうか、どうか。)

ふう、そんな泣きそうな声で言われて断れないだろうが。

「わかった、外史に行こう、奴を・カムハーンを野放しにしておく訳には行かないからな。」

(本当ですか!?)

「ああ、それに奴を仕留め切れなかった俺にも責任はある、今度こそ本当に奴を・カムハーンを滅ぼしてやる。」

そうだ、放つて置く訳には行かない、奴がいる限り悲劇は生まれ続ける、悲劇の元は断ち切らなきゃならない。

(ありがとうございます、その決断に幾千の感謝を。)

「気にするな、言っただろ？奴を仕留め切れなかった責任は俺にもあるってな。」

(そうでしたね、あなたはそういう人でしたね。)

「どつという人だよ。」

(こうゆう人です。)

「ハハハハ。」

(うふふ。)

少しの間二人は笑い合った、昔のように、エミリアとミカと刹那の三人で笑い合った時のように穏やかに、笑った。

「さてと、じゃあ早速その外史に送ってくれよ。」

(そうしたいのは山々なのですが、今すぐ外史に行くというのは無理なのです。)

「ン？何でだ？」

(あなたの魂を外史の世界に馴染ませる為には時間が掛かります。)

「じゃあ、どうすんだ？」

(貴方には転生という形で生まれ変わって頂きます。)

「て、転生ってあれだろ？前世の記憶を継承して生まれるってやつだろ？」

(はい、転生という方法の方が安全で確実に外史に魂が馴染みやす

いですし、何より・・・)

「何より?」

(若い身体の方が動き易いでしょう?)

「アー、・・・なるほど」

確かに、五十歳の体力じゃあカムハーンと戦うのは無謀か。

負けるつもりはないが、勝てる自信も無いな、相討ちなら話は別だな。

(記憶に関しては、生まれ変わってから、直ぐにはなく十四歳になってから記憶が戻るようにしておきます。)

「了解した。」

(カムハーンは、あなたが生まれる国とは違う国にあなたと同じ様に転生しています。)

今すぐには事を始めることはないはずですが、ですから貴方は貴方のやり方で生きて下さい、それがカムハーンを倒す唯一つの道です。)

「分かってるよ、そんじゃ、外史に転生させてくれ。」

(分かりました、もう準備はできています。あの扉を潜り抜ければ転生します)

ミカが指差した所を見ると真っ白な扉が、立っていた。最初からあ

った様に、静かに、立っていた。俺は躊躇う事なく扉に向かい歩き、ドアノブに手をかける。一度振り向き声をかける

「じゃあ、行ってくるぜミカ。」

（はい、よろしくお願いします次に会うのはあなたが新しい生を終えた時ですね。）

「気が早過ぎだろ、まあ、少しの時間でもミカに会えただけでもよしとするさ、・・・またな」

扉を開き中に入ると瞬間、意識が浮き上がる感覚になり、意識がなくなつた、意識が消える瞬間ミカがとうとう、と聞こえたのは聞き間違いでは無いと思つた。

外史に転生する英雄、焰・刹那、彼がどんな歴史を歩むかはまだ、誰にも分からない。

大いなる母との再会、母の願い（後書き）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8010s/>

真・恋姫†無双～守護神伝～

2011年10月8日14時51分発行